

發行所 河内村公民館
 發行人 沼 崎 正
 編集
 印刷所 龍崎活版所

昭和34年度予算きまる

三月十二日より十九日迄の八日間に行つて昭和三十四年度河内村歳入歳出予算外

総額 52,509,320 円

修並に敷地拡張をはかって
新村運営の基盤である学校
教育の完成

三金江津村を併せて行政区域が著しく拡張いたしましたので事務連絡を迅速にするための施設

予算は、まことに稀薄でありましたが農薬関係諸団体と同研究団体には補助いたしました。

④ 成方針であります。

⑤ 輸入歳出及び事業の大事業に知らせ致します。

環境と習慣

長竿

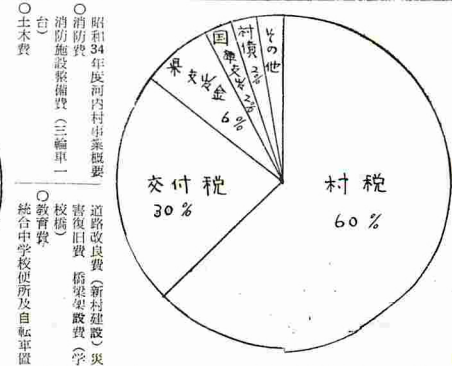
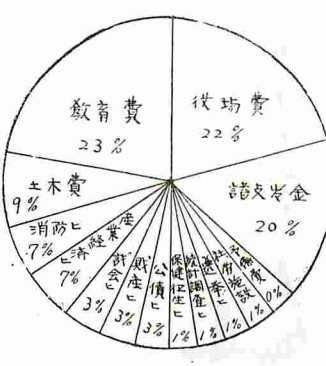
中條利巳

行にあつた

才二敵艦投下戦に於て悲惨極まる敵艦投下戦に於て無條件降伏の憂き目を見た日本、この國に生を受けた我々は之を悲しみの大きい環境に立たせられたわけである。

終戦早や十有余年を過ぎた日本の復興ぶりは、けだし西ドイツにも比してそう劣らないものではないだろうか。そうした力を出し得た敗戦日本がアジアの小国ではあるが、国家意欲としての民族意欲、日本意識を持った國民の環境なるが故になし得た、環境の

歳 入			歳 出		
1. 課 税	31,283.100円	60%	1. 課 税	1,302.250円	3%
2. 地方交付税	15,538.020円	30%	2. 役 場 費	11,408.483円	22%
3. 公営企業及 財産収入	1,703円	0%	3. 消 防 費	3,645.000円	7%
4. 使用料及び 手数料	247.000円	0%	4. 土 木 費	4,484.000円	9%
5. 国庫支出金	854.000円	2%	5. 教 育 費	11,802.174円	23%
6. 県支出金	3,259.500円	6%	6. 社会及福祉施設費	744.250円	1%
7. 寄 付 金	1.000円	0%	7. 保 健 衛生 費	578.000円	1%
8. 繰 越 金	10,000円	0%	8. 雇 傭 経 済 費	3,899.476円	7%
9. 雑 収 入	265.000円	0%	9. 財 産 運 費	1,342.000円	3%
10. 村 債	1,000.000円	2%	10. 統計調査費	319.500円	0%
			11. 道 途 計 画 費	699.800円	1%
			12. 公 債 費	1,596.003円	3%
			13. 諸 支 出 金	10,510.000円	20%
			14. 予 備 費	208.387円	0%
合 計	52,509.320円		合 計	52,509.320円	



◆◆◆家庭メモ◆◆◆

これかしはばく朝晩と日中の業の業が大きくなりまして喜がに着して夜に冷えたたりとて、毛布一枚位は手出ししておき、又よ又よとんが体の弱きを予へ事多しをす。よにしましよ。

交付税 30%
 村税 60%

○教育費
 校費
 道路改良費（新村建設）
 害復旧費
 橋梁架設費（學
 校）
 統合中学校便所及自転車置

樹木の苗を植えよう

【逸名生】

樹木を愛そう

よいのではなからうか。一望千里して、群峰に点々と濃緑を散らし、我等をよくよく慰めてくれる、大地は形も寸草も大である、この姿を形成する樹木は何れも幾十年幾百年の風雪に耐えながら逞しい力を疎して見る者、迫り望むに感力な力をそれらの幹に枝に凝結して居るものがある、たとへば何百万円を投じて得難いそれ根を下し、大地にしものとも根を下した生きた力そのもの、この大木は思ふに平野

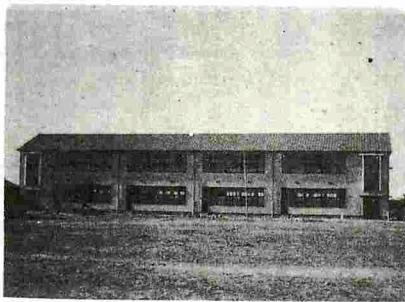
封目印となつてた本名木
 があられ新文化したもので
 諸君、この世の人々を愚かさ
 を笑ふのもいい、然しこれに
 似た例は案にその他へ地方
 にもあるのにはないたが、
 再び言ふ、幾千萬金に富
 を生きた人々を、怒怒然生や
 と思ふことは不能だ、何代か以
 前の祖先が不精に成るやうに
 樹を吾に、此の世代に引し送
 したる誇りの、其れ共になし
 したるの、本名木の子孫の祈
 うよではな、
 皇太子殿下御成婚の記者事業
 として、各々の庭に、本名木
 の苗木を植へ、本名木は
 だうだう大金を成るうけ
 が能ではない、私は日光街近
 の杉木田中屋を思ふと此の
 ころの事を憶ふ、
 目先の事に切だつたが、この
 時に遠く東京に立寄つた時
 刻が到来した様に思ふ、個

車は左

交通事故のなほ、村を
つくりまゐる。

陽春三、四月は一年中で、
で家族がなほ、英革シズベ
や引越旅行、通のよう、
など、野は時々な人達、
とこの一ズン、人々の浮
であります。例、この行業
交通のたになり、縮、
に船運、定、超、速、
に、出、者、幼、一、
の、事、故、多、う、
免、○五、○四、○一、○年、
重、○八、○九、○十、○年、
つ、り、ま、ゐ、る、
四、月、も、と、多、く、事、故、
て、ま、ゐ、る、
て、ま、ゐ、る、

新農山漁村建設



☆……増築完成した河内中学校……☆

計画について

に事なされ、
農科時代に於ては徳川時代には宮内卿にして、耕牧改良の官仕成り明治の石川理一郎以前より一唱れたる徳義雅明の精神と昭和当初の農村復興の基本的政策とを農山漁川経済正副院長でありながら、これの計画に於ては一定の指導者として行なわれ、な計画樹立方法がはっきりして、したが等の欠陥もありましたが、本年より計画的な考へについて、は農家の方々とい専門家の協力を取り入れて進れるが最も重要な点で、残ける計画樹立で事が実施されて行くこと。

従つて自道で災患の少ない住み易い村にするが皆さきが新聞やラジオ等を見聞きして居る新村建設論でありまして憚んの強ひ過ぎと立派な計画として、安定した住み、農科建が出来るのだと、農村では具体的にどんな事を本村で取入れられるかを考へて、話し合つて見たいと思います。

（次）（次）（次）

[illegible]

~~~~~

~~~~~

